

西宮版総合戦略に係る有識者会議

日 時	令和6年11月11日(月) 午後3時00分～5時00分
場 所	西宮市役所 第二庁舎4階 B405会議室
出席委員	角野委員、石田委員、中村委員、花城委員
事 務 局	時井政策局長、堀越政策総括室長、田中産業部長、菅梅政策推進課長、の場保育所事業課長、越知文化スポーツ課長、但馬商工課長、鳥居商工課係長 ほか
会議の公開	公開
議 事	(1) 第2期西宮版総合戦略の目標達成状況について (2) デジタル田園都市国家構想交付金事業について

(主な意見)

(1) 第2期西宮版総合戦略の目標達成状況について

- ・学生ボランティアのマッチング事業について、現在「103万円の壁」の見直しが議論されており、今後、学生の労働時間が長くなることが予想される。アルバイトと並行してボランティアを行えるような配慮が必要ではないか。
- ・各大学にボランティア育成の意向はあるが、今の学生は学業とアルバイトの両立で非常に忙しい。学生はこれからますます減っていくので、学生に求める役割も変わらざるを得ない。どういう優先順位をつけて何を期待するのが大きな課題となってくる。
- ・酒蔵ツーリズムについて、宿泊施設との連携により大阪や神戸の宿泊施設まで移動しなくてもよくなるため、来訪者の増加につながるのではないか。
- ・従来からの「住み続けたいまち」というイメージと観光振興は相反するように思われるが、阪神間モダニズムの時代には甲子園ホテルなど著名なホテルがあり、サロンとして使用されていた。そこからビジネスが生まれることもある。そういった歴史や可能性を発信していくのもよいのではないか。
- ・待機児童対策として幼稚園を認定こども園化する取り組みを行っているものの、なかなか進まないということだが、市内大学や企業と提携し、子どもの受け入れに関して優先措置をとるなどの方法はとれないか。
- ・保育士不足については、リカレント教育での保育士資格取得について大学に補助金を出す、西宮市で保育士として勤務した場合に奨学金の返済を支援する、シニア層や市内大学のOBにご協力いただく、といった方法を検討してみてもどうか。
- ・人口流出について、年齢を0～14歳に区切って分析されているが、もっと細かく分けて分析してもよいのではないか。小学校進学に合わせて西宮市に引っ越したいと思っている人が多い印象があるので、甲子園やキッザニアなど子どもが喜ぶ施設の市民特典を設けてみてどうか。
- ・都市ブランドについて、誰に対して発信していくのが難しい。15歳～29歳の若者世代が流出しているとのことだが、この世代は西宮市を住む場所には選ばない。西宮市は酒蔵が多いが、若者の酒離れが進んでいるというマーケットの状況について、

企業としても悩んでいるところだ。

- ・財源として、ふるさと納税・企業版ふるさと納税の活用は重要。寄附をしてくれる企業に対して西宮市として何ができるかを考えていくべき。西宮市といえば甲子園と酒のイメージが大きい。これらをインバウンド需要につなげていき、市内経済のなかでの好循環を推進してはどうか。
- ・「文教住宅都市」というイメージは、西宮市を住まいとして考えている人にとってのブランド力が強いので、それ以外の人たちに対してどういう売り出し方をするのが課題。また、「文教住宅都市」というイメージを掲げると特定の地域のみを指すように聞こえてしまうが、市内の各地域の個性の発信についても2段階で考えていく必要があるのではないかな。
- ・K P I だけを見ても質の議論はできないことに注意する必要がある。例えば、大学との連携事業数は確かに増加しているが、それは大学側にニーズがあるからであり、その中身については評価できない。
- ・目標達成に向けて、細分化した視点を持つと面白いのではないかな。誰をターゲットにするのか、「文教住宅都市」という特色が強いのは西宮市のどこの地域なのか。子育て支援にしても、ひとくくりにするのではなく、乳幼児、小学校、中学校、それぞれの段階での支援を分析的にとらえてみて、もう一度組み立てなおすという発想が必要なのではないかな。
- ・先日丹波地域の酒蔵を訪問する機会があったが、万博関連事業に積極的に参加して観光客を呼び込もうとする酒蔵もあれば、本格的な酒を造って味の分かる人に届けたいという戦略を取る酒蔵もある。西宮市でも酒やスイーツなど同じような状況があると思うが、それぞれを尊重していけば、ローカルブランドとしてブランド力をさらに高めていくことができるのではないかな。

(2) デジタル田園都市国家構想交付金事業について

- ・起業家支援センターについて、学生の起業支援は圧倒的に関東が多い。大学卒業を機に県外に出てしまう人が多いので、学生に的を絞って西宮市での起業を支援してはどうか。
- ・保育所 I C T 化について、非常に便利なシステムだと思うが、デジタルの使いにくさやシステムトラブルで通知が届かない可能性などもあるので、重要なお知らせのみ紙で併用するという方法も検討してはどうか。
- ・高校でも学校からお知らせが配布されたという情報のみ配信してくれるサービスがあり、子どもに確認することができるようになっている。ただ、保育所や学校と保護者とのコミュニケーションは継続すべき。
- ・便利になったことにより、時間外にメールが届いて職員が対応しなければならないなど、職員の負担が増えることも懸念されるので、何らかのフォローが必要なのではないかな。
- ・どんどん推進していくべき事業。小学校や中学校であればどうなるのか、全く別の介護の分野などでの活用の可能性も考えられる。プラスアルファで西宮市の固有性が打ち出せればブランディングにつながるので、そういった方向性で戦略を考えて

かどうか。

以上